

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 泰葉 グループホーム泰葉
(ユニット名)	ユニット(B)
所在地 (県・市町村名)	長崎県北松浦郡江迎町北平免6-1
記入者名 (管理者)	國松 弘樹
記入日	平成 20年 2月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所内に理念・目標をかかげ、家庭的な生活に近づけるよう従事している。	○	<p>年度目標をあげ、職員が団結し取り組んでいる。</p> <p>H19年度目標→自分のことは自分です。結果として自分でできることも職員に依存することが多かったが、少しずつ自分でしようという気持ちが芽生えてきたように思える。</p> <p>H20年度目標→協調性をはぐくむ。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員は理念・目標を頭におき、日々入所者と接している。	○	<p>入所者個々に応じ、出来る事は自分で行っていただき、出来ない部分は職員が介助しています。(全介助ではなく、リハビリもかねて少し手をかす程度にしている。)</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	泰葉だより(事業所の新聞)を通し、理念・目標をおたえし、協力や理解を得てる。	○	<p>泰葉だよりに理念・目標をのせ、御家族や地域の方々に協力や理解をしていただけるよう、今以上に取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	泰葉だよりを発行し、グループホーム内の行事をお知らせしたり、避難訓練等の参加を呼びかけている。地域の方に限らず、あいさつをしたり、日常会話を行なうことでお花をいただいたりや交流できている。	○	<p>泰葉内の行事への参加を呼びかけ、たくさんの方に参加していただけるよう泰葉だよりの発行や声かけを行なっていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	なかなか地域の行事には参加できていない。老人会での敬老の日の催し物などの参加の声がかかるが、入所者の意志により参加していないのが現状です。	○	<p>地域の行事に入所者の方と参加し、グループホームについて理解していただけるよう取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の奉仕作業などの行事への参加はしたことがない。	○	今後は入所者・職員共に積極的に参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ一同、大きな目標(利用者の幸せ、家族の方の安心感)に向かって努力している。	○	ミーティング等で意志の統一をはかっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	色々なご意見、ご要望を聞ける場であり、徐々にではあるが業務に活かしている。	○	メンバーにまだ認知症の有識者、医師の方がいないので加わっていただき、さらに向上させていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と地域の現状、事業所の現状等を話して、サービスの向上につとめています。	○	現在、社会福祉協議会にも行き来している。今後は、さらに回数を増やし、連携をとれるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強不足な部分があり、まだ取り組んでいるとはいえない状況です。	○	講習会等に参加し、知識を深め活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の講習会等の参加はしていないが、入所者を虐待することがない様、事業所内で会議をしたり、職員間で話し合い、虐待防止につとめている。	○	関連する勉強会への参加をし、虐待について学び、注意を払い防止につとめていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前にひととおりの説明を行い、契約時再度説明を行っている。また、解約時も入所者、家族に十分説明を行い理解、納得をえられた上で手続きを行っている。</p>	<p>○</p> <p>現在、行っていることを今後も続けていき入所者、家族に不安をいだけさせないよう説明を行っていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所者と意見交換を行い、不満、苦情についてはその都度対処している。その場で解決できないことは、職員ミーティングで解決策を話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>入所者からの意見を聞き、職員一同よりよい生活ができるようまた、運営に反映できるようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入所者急変時(状態変化があった場合)は随時、面会時、遠方の家族に対しては、手紙、電話にて報告している。</p>	<p>○</p> <p>電話、手紙にて状態報告を続けていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との意見交換を行い、苦情、不満については担当者が対応している。対応できない場合は管理者、職員とミーティングを行い解決している。</p>	<p>○</p> <p>家族からの苦情、要望は遠慮なく意見していただき、事業所の運営、向上に反映させていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見、提案を聞き、優先順位をつけ、必要なものから反映している。 職員間のミーティングを行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員間のミーティングで意見交換をし、事業所の質の向上につとめていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応ができるよう、職員は常に6～7人確保している。 欠勤者がでた場合も、公休の職員と話し合い勤務調整を行っている。</p>	<p>○</p> <p>常時、職員が6～7人確保できるよう勤務調整を行い、柔軟な対応ができるようにしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現時点では職員の異動等はないので、入所者に不安をいだけさせる等の影響はない状況です。</p>	<p>○</p> <p>職員の異動、離職があった場合は入所者に不安をいだけさせないよう対応していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者・職員は段階に応じ研修会に出席し、質の向上につとめている。また、資格取得のためにがんばっている。</p>	<p>○</p> <p>年2回以上の研修会参加を行い、よりよい援助ができるよう取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>不十分である。</p>	<p>○</p> <p>地域の社協主催の介護教室などには参加しているが、他ホームとの交流は不十分なので見学(ホーム見学)等を企画していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ミーティング時、職員間で意見交換をし、数ヶ月に一回は親睦会をしている。</p>	<p>○</p> <p>ストレス発散の場をもうけ、ストレスにより体調をくずさないようにしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員と会話の場をもち、向上心をもって働けるように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>研修等の参加回数を増やし、共通の意志を持つ仲間の中で勉強し、介護の大切さを理解し、やる気を引き出していきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>朝のバイタル時の会話などを大切にし、その中からご本人の考え、精神状態を組みとるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>入所者が訴えられる時も話しを最後まで聞き、申し送りなどで職員全員が理解できるようにしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族との会話も全職員が積極的に行うようにしている。</p>	<p>○</p> <p>家族との信頼関係は出来、希望・要望が話せる状態である。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	要望がでた場合は、職員が共通の意識をもち対応している。	○	全職員が家族及び入所者の立場に立ち考えてい きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	ミーティングで話し合い、どのような方法がいいのか検討して実行して いる。	○	実行した内容が、結果的に悪かったりする場合もあ るが、今後はさらに質を上げていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中からくみ取り、共に笑い共に悲しみ、入所者の気持ちになっ て支えあい生活している。	○	職員間の情報の共有が大切なので、ミーティングを 充実していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族の協力があり、一緒に入所者を支えている。	○	遠方の家族は、難しい部分もあるがホームからの細 やかな情報で電話での対応等をしていただいでい るので続けていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	職員との信頼関係ができあがり色々な生活はあったと思うが、関係が改 善した家族がある。	○	質・意識の向上に常につとめ、家族が気をつかわ ないような環境をつくっていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないう、支援に努め ている	ホームに遊びに来ていただいたりしている。	○	十分でない方もいるので可能な限り、状況を理解 し、家族・地域の方と連携を取りつとめていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	人間同士の付き合いなので難しい面もあるが、色々な場合に対応でき るようにしている。	○	職員が入所者同士の潤滑油となりながら日々生活 している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気が悪化して長期入院され、家族の方が再入所を希望される場合は主治医またはソーシャルワーカーと連絡をとっている。	○	2～3ヶ月の入院で再入所は難しい問題であるが出来る限りのことをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で検討して入所者一人一人が生活している。	○	入所者一人一人にあった生活を検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	社協の担当者、家族から情報を得ている。	○	短期間では結果が出ないので職員間で話し合い、入所者のより良い生活をめざしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化があればその都度報告しているが情報を知らない職員は対応がスムーズに行えない場合もあった。	○	職員間で情報を共有し対応の質を向上していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員の意見を聞いている。	○	家族は気をつかわれる場合もありますが、その中から意見・要望を反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期(3ヶ月)、長期(6ヶ月)で介護計画をたてている。	○	長・短期ともに、次回に持ちこす場合もあるが、著しい変化(ADL低下、認知の程度身体的変化)がない場合は、本人、家族の意見も積極的に取り入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通院時に主治医の意見などもきいている。	○	個人記録の利用価値を高め、日々の記録を十分にしていきたい(充実させたい)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況を理解しながら対応している。	○	「どこまでいきとどいた支援につながるか」という事を追求しながら努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・民生委員の協力は得られている。	○	ボランティアをこれまで受け入れたことがないが、今後考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今までに利用したことはない。	○	今後、必要な状態が生じた場合、連携をはかっていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	センターの方には、入所後の報告はホームだより等を配布する時に行っている。	○	今後、アドバイス・意見をうける回数を増やしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望で受診している。かかりつけ医が変更になる場合、本人、家族と相談している。	○	看護師も常勤しており信頼は得ている。さらに、本人、家族が安心出来るようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが主治医と連携はとれている。	○	今後は、専門医の意見を取り入れよりよい支援ができるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	通院時に、入所者を知る看護職員等とは、気軽に情報交換できている。	○	協力関係(信頼関係)がきずけるようにつとめていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医と常に相談しながら、病状の把握、退院の時期等を話し合っている。 また、家族とも話し合い不安のないよう対応している。	○	信頼関係を維持していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人が理解できない場合が多いが、家族の要望を主とし、医師(主治医)等と相談している。	○	本人・家族がストレスを感じないように最大限につとめていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師が常勤し、夜間もオンコールで対応できるように入所者の変化に備えて検討や準備をしている。 事業所の「できること、できないこと」を家族にも説明し理解していただいている。	○	重度化、終末期の方は最終的に病院ですごすことがほとんどですが、万が一にホームでの急変に備えて看護師にはオンコール対応としている。また、消防との連携もとれている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に慣れるまでに時間がかかる場合があるので、家族・ケア関係者から情報を得ている。	○	今までの経験をいかし、色々な方法を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>一人一人を尊敬して接している。個人情報の取りあつかいにも十分注意している。</p>	○	<p>今後はさらに徹底していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入所者との会話を大切に理解し対応している。</p>	○	<p>認知症が重度な入所者との接し方を学び、質の向上につとめていきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入所者一人一人のペース・リズムを大切に、可能な限り希望にそって支援している。</p>	○	<p>入所者全員が毎日満足するのは難しいが、ストレスにならないよう対応していきたい。</p>
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>希望時は本人が望む美容室に送迎している。女性の入所者には、化粧をしたりマニキュアをしたり、男性の入所者にはひげそりをして身だしなみやおしゃれをしている。</p>	○	<p>入所者本人が、意欲的におしゃれ等ができるような企画を考えていきたい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>毎日ではないが、入所者の希望を聞き提供している。準備、後片付けも入所者に手伝ってもらっている。</p>	○	<p>手伝いが出来る出来ないに関係なく入所者一人一人の能力に応じた手伝いができるよう職員が支援していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>入所者の嗜好にあわせ日替わりで飲み物、おやつをだしている。希望がある時は夕食後アルコール飲用している。家族からの差し入れは場合により職員で管理することもある。</p>	○	<p>差し入れをあくまであずかる場合、本人は不満に思うこともあるので、ストレスにならないよう対応していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿・便意の感じ方がまちまちであり、排泄の有無がわからない入所者に限り、職員が声をかけながらトイレ誘導を行っている。	○	入所者に声をかけ、入所者のリズムでトイレ誘導等を行っていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入所者本人の希望にあわせ、入浴している方もおられる。一人で入浴できない方は、職員が一部介助し入浴している。2回/週(月・木)と決めているが、入所者が入浴したい時に入浴できるよう支援している。	○	今後も、入所者が入浴したい時に入浴できるよう支援していききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人のリズムで生活できるよう環境をつくり安全・安楽に生活できるよう援助している。昼夜逆転傾向の方には、昼間声かけなどを行い、起きている時間を長くし、夜間ゆっくり休めるように支援している。	○	一人一人の生活習慣に応じ、ゆっくり過ごせる空間づくりをし、安眠できるような環境づくりをしていききたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天候をみながら、テラスで気分転換をしたり、散歩に行ったりしている。配茶係、配膳係等入所者にあつた役割をもち、手伝ってもらっている。	○	一人一人の力に応じ役割を決め職員と一緒に協力し、張り合いのある日々を過ごせるよう援助していききたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の力に応じて、金銭管理されている方もおられる。希望時、買い物、散髪、娯楽等にお金を使用できるようにしている。	○	おこづかいを持っていない入所者でも、職員と一緒に買い物をし、お金を所持することで大切さを理解できるよう支援していききたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内だけで過ごさず、入所者の希望に応じ外出をしている。一人で外出することができない入所者には職員が同行している。	○	事業所内だけで過ごさず、希望に応じ家族の協力を得て、外出・外泊を支援していききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所へは、職員や家族の協力のもと、ドライブ等の外出をしている。	○	職員だけでなく、家族の参加をよびかけ、職員と家族、家族と入所者、入所者と職員のコミュニケーションを図っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に手紙を書いたり、電話をしたりされている。自分で電話できない方、手紙を書けない方には職員が電話したり代筆したりしている。	○	今行っていることを続けていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人の訪問は頻回にあり、一緒に食事したりできるような時間をもうけている。	○	現在行っていることを続けていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極端な不穏時に限り、夜間のみヒモ付きズボンを使用している。 家族の負担を軽減するため(布団クリーニング)	○	安定した精神状態を保てるよう職員間で話し合っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠せず入所者の見守りを十分行っている。 夜間は施錠している。	○	夜間みの施錠で、昼間は職員が入所者の見守りを徹底していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して入所者の様子を観察、把握し安全・安楽に過ごせるよう配慮している。	○	安全に生活できるように観察し見守りを徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品には職員一同が細心の注意をはらい、危険防止に努めている。(例えばアイロン、ドライヤー、ヒーター等は職員と一緒に使用している)	○	危険な物品を全て除去するのではなく、入所者の希望に応じ使用していけるよう支援し危険防止につとめる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる事故に対し、未然に防ぐ方法や発生時の対応ができるよう職員一人一人が学び事故防止に取り組んでいる。	○	知識をもっと深め事故が発生しないよう、また発生しても素早く対応できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師を中心に応急手当や初期対応ができるよう、日々話し合いをし知識を深めている。	○	今後、定期的に訓練を行い急変時事故発生時に備え対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練等には地域の方の参加を呼びかけ、協力を得られるよう働きかけている。	○	今後も地域の方の協力が得られるよう働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関して(あらゆるリスクを考え)家族に話し、説明を行い、危険だからといって行動を抑制したりせず、職員の見守りを徹底している。	○	現在行っていることを今後も続けていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時、随時、職員間での申し送りをし、看護師に相談し速やかに対応している。	○	速やかに対応できるよう申し送りを十分に行ってきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による説明で職員が理解し、服薬の支援をしている。服薬管理、服薬確認している。	○	薬が変更になった場合、看護師からの説明を受け、職員が理解し、体調の変化がないか注意し、観察を行ってきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維の摂取、乳製品の摂取、水分補給を行ったり軽い運動を行ったり工夫している。	○	便秘にならないような食事を工夫し、体を動かせる範囲で動かしていくよう声かけ等を行ってきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、口腔ケアを行っている。(一人で出来ない方は職員が一部介助、出来る方は見守り、声かけをしている)	○	口腔ケアを続けて行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者一人一人に応じ(病気、食欲を考慮して)栄養摂取・水分補給ができるよう支援している。	○	食事で摂取できない場合は、おやつ時、代用品を摂取できるよう支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスに関しては細心の注意をはらっているが感染症マニュアルはない。	○	今後は入所前に感染症がないか検査をし、他入所者に感染しないよう支援していきたい(入所前の健康診断を行っていく)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	季節により、生物等をひかえたり加熱をしたりし衛生管理につとめている。調理用具は定期的に消毒している。	○	現在行っていることを徹底して続けていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や人形等を置き、気兼ねなく出入り出来るようにしている。	○	玄関先に季節の花を植えたり工夫していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が出るような物は置かず、家庭的な空間づくりにつとめている。	○	トイレ、浴室は居心地よく過ごせるよう工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後や時間があるときには、思い思いにソファで過ごしゆっくりとした気持ちでTV見たりとくつろがれている。	○	一人一人の居場所づくり、思い思いに過ごせる場所の工夫をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が過ごしやすいような配置(家具、TV、仏壇等)を工夫し、本人、家族の意見も取り入れている。	○	入所者、家族の意見を聞きながら使用しやすい居室づくりをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時、換気を行い湿度や温度の調整をしている。 空気清浄機設置している。	○	入所者の状態に応じ、換気や温度、湿度調節を行っていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであるがフローリングのため転倒等の事故がおこる可能性はある。入所者一人一人が安全に過ごせるよう、見守りを徹底している。	○	見守りが主体ですが、入所者のADL低下等必要に応じてジュウタンなども考えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入所者本人ができることは時間がかかっても行ってもらい、自立して暮らせるよう工夫し支援している。	○	入所者一人一人の力を活かして支援していくようにしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候に応じてレクを楽しんでいる(バーベキュー、軽い運動、誕生会等)	○	入所者が楽しめるレクを行ってほしい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、入所者・家族が笑顔で過ごせるよう支援しています。
 苦情・不満・要望等を気軽に話せるような雰囲気づくり、環境をつくっています。
 そのため、職員と家族、職員と入所者とのコミュニケーションも図れていると思います。
 グループホームという名前の家族でみなさん楽しく過ごされています。